

## マジック

高松文三

鍼灸を始めてはや 25 年になる。

ただがむしゃらに突き進んで来た訳だが、それなりの形には落ち着いた。ここ 2-3 年あまりは、毎日 30 人前後の患者さんが来てくれるまでになった。

ただいつも思うことだが、特別な師匠を持たないというのはこの世界ではやはり不利である。独りでやっているとずいぶん無駄が多い。そばに先生がいれば技術的なことにとどまらず、治療の上で遭遇するあらゆる問題について相談も出来るだろうし、色々な示唆を受けることもあると思う。その上身近に先生がいれば、迷いが生じたときに、目の前で自信を持って治療をして成果を出している師匠の姿を見ながら、己の治療に対しての自信を培って行くことも出来る。

周りに相談できる先輩もなく、唯一頼りになるのは諸先達の残した本と、各地で行われるセミナーという状況との一番大きな差は、こんなところにあるのかもしれない。自信のある先生の治療する姿を見、その場の雰囲気と共有する時間を持つことが、自分の揺るぎない治療態度の基盤になるのだと思う。師匠がいれば、ここまで来るのにこんなに時間はかからなかったらという気さえる。

そう言えば長野潔先生は 40 才までに自分の治療体系を築けといわれたが、50 才を越えた今になっても実現しない。どうもこの先も無理のような感じがする。

ただ自分の治療スタイルのようなものは出来上がったように思う。実を言うとこのスタイルが出来てからは、あまりセミナーにも参加しなくなった。向上心が無くなった訳ではなく、他の先生のやり方をものに出来ない、というよりもある程度影響は受けても、しばらくすると自分のやり方に戻っているのである。

この自分なりのスタイルという物を説明したいのだが、これがまた厄介だ。場数だけは結構踏んでいるので、だいたい患者さんと話をしている段階で治療プランが頭に浮かぶ。これは言ってみれば職人的な勘であってマニュアル化は出来そうもない。おそらく鍼灸に関する本は一生書けない。残念なことだ。この勘というのがまた曲者で、いつも冴えているとは限

らない。これをいつも冴えた状態にしておくというのが、今の私の最大の課題だ。

自分の健康管理に注意を払うのは当たり前のことである。健康管理に関して言えば、私の場合は毎朝、ベッドの上で八段錦法まがいの体操をやる。これは 30 年前に行った断食道場で教えてもらった導引に、ヨガなどを加えて自分なりにアレンジした体操である。これをやっている限りあまり運動不足は感じない。それから約 4 バウンドある木剣の素振りをして 200 回やる。そしてもう一つ今年からは一日最低 15 分間瞑想をすることにした。

結局、患者さんが我々に要求しているのは、理屈を超えた直感力、洞察力であるというのは常々感ずるところだ。マニュアルを見ればわかること、コンピューターにプログラムできるようなことを患者さんは求めていない。一瞬で何が本当に悪いのか、どうすればよいのかを判断する右脳的な直感力を求めている。

言い方は悪いが、患者さんが求めているのはマジックなのだ。我々はある意味マジシャンである。鍼とモクサを使ってマジックをする訳である。一瞬で痛みを消したり、和らげたりするのだから患者さんがそう思っても無理はない。ただいつもそのマジックが成功するとは限らない。思うのだが、名人と我々の差は名人たちはコンスタントにマジックの出来る人たちだ。そして、直感力はマジックには必要不可欠である。

過去名人と呼ばれるほどの人は、皆この直感力が人並みはずれて発達していた。沢田先生、深谷先生、間中先生、長野先生、皆然りである。こういう能力は生まれつきのものだと思っていたが、果たしてそうなのだろうか。今一つこれらの先人たちに共通しているのは皆大変な勉強家だったことだ。いわば徹底して左脳を鍛えた結果、右脳的な勘が働き出したのかもしれない。いや、やはり根底には患者さんをよくしたいという熱烈な願望があるか、あるいはやっていることが心底好きというのがあって、それがために勉強をし、それがために発達した勘なのだろう。であればいつも患者さんの助けになろうという強い思いを持ち続け、あきらめず努力を続け、そのことに喜びを見だし続ければこれらの先人たちに少しは近づけると思う。

師匠を持つ人が羨ましいと言った。自分を磨いてゆく過程で師匠を超えられるかもしれない

という楽しみもある。たいていの場合は、師匠も止まっている訳ではないので無理なのだが、絶えず目標が目の前にあるというのは前に進みやすい。独りの場合、先ほど言ったことと矛盾するようだが、自分で自分の枠をくずしてはまた少しその枠を大きくするということの繰り返しだ。どんな些細なことでも治療に役立てることが出来ないかと、絶えずアンテナを張っている。こだわるものがないので、その点自由が効いているのかもしれない。私のマジックはまだまだこれからだと思っている。

高松文三

1982 年、ニューメキシコ・サンタフェの Kototama Institute を卒業。1988 年よりダラスにて開業、現在に至る。鍼灸に加え操体法、マクロバイオティックも指導する。現在、テキサス州ダラス市にて開業する。

## DVD 取穴論 2

定価 6,300 円 (税込)

出演：首藤傳明

約 112 分

制作：弦躰塾

## 内容

首藤傳明師によるツボの解説とその取り方、超浅刺の妙技を撮影・編集。収録されている経穴は、天宗、曲池、缺盆、腸骨点、小腸俞、風府、痙門、上天柱、曲泉、内膝眼、太淵、合谷、大陵、内関、指間穴など、臨床でよく使うツボばかり。「生きたツボ」をいかに取穴するのか、そしてそこにどう鍼を刺すのか。50 年の臨床経験から編み出された技が紹介されています。

## 出演者のコメント

この DVD は弦躰塾で行った「取穴・刺鍼の指導」を収録したライブ DVD です。セミナーをそのまま録画しているため、画面のぶれや音声の聞き取りにくいところがありますが、技は本物です。

アメリカ・カナダでの注文は email で：  
\$55.00USD (includes mailing)

アメリカ：acushiatsu@earthlink.net

カナダ：najom@shaw.ca